

変質する日米合同演習

米軍と自衛隊が一体で「対進着戦」など対中国を想定した合同演習が相次いでいます。10月1～14日、米海兵隊と陸上自衛隊が実施した「レンリュート・ドラゴン22」(RD-22、北海道矢臼別演習場など)は、東シナ海・南シナ海で離島を奪取し、ミサイル攻撃と進出の拠点を構築する「遠征前進基地作戦(EABO)」の大規模演習でした。米軍と一体の演習で「敵基地攻撃」行使へ危険な姿質がいつそう進んでいます。

(佐藤ひづみ)

前進基地を構築

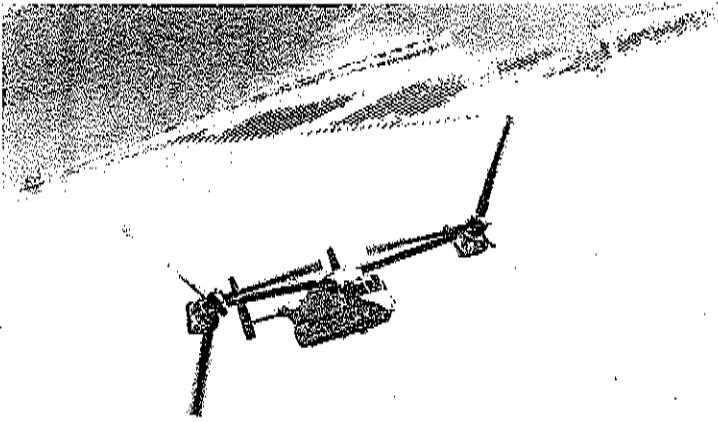
EABOは、米軍の接近を阻止し、米軍の侵入を拒否する敵の長距離火力射程内に進出して「前進基地」を構築する作戦です。△对中国作戦を想定し、日本列島、西諸島、台湾、東南アジアを結ぶ中国の防衛ライン「第一列島線」内の離島を奪取／米海兵隊の高機動ロケット砲システム(HIMARS)による空中強襲訓練を実

「(一)なぜ中國軍の艦船や航空機の行動を阻止し、海軍とともに制海権を確保／電子・情報・サイバー戦の実施、給油や兵站拠点、飛行場の設置など侵攻作戦の継続を支援－することが目的です。

レソリュート・ドラゴン22で低空飛行訓練をするMV22オスプレイ=10月13日(米国防総省映像情報配信サービスDVIDS)

对中国想定 米シナリオ 離島奪取作戦／列島全域で

今月10日からは自衛隊約2万6000人、米軍約1万人にオーストラリア、カナダ、イギリスの艦船も参加した日米共同統合実動演習「キーン・シード23」が始まります。



施。海兵隊のハイマースと陸自の多連装ロケットシステム(MLRS)が矢臼別演習場で実弾射撃訓練を行いました。

低空飛行も実施

演習は北海道だけではなく、日本列島全域で米軍基地などを利用し繰り広げられました。米海兵隊のMV-22オスプレイは、敵レーダーを回避する日本本の航空法の最低安全高度基準以下の300m(約90m)の低空飛行も実施。航跡を通過した京都平和委員会によると、飛行は宮崎、岩手県県まで及びました。

空軍特殊作戦機CV-22オスプレイは横田基地(東京都)から長距離飛行し特殊作戦部隊を投入する訓練をしました。オスプレイやヘリは、普天間基地(沖縄県)からの中継に厚木基地(神奈川県)を使用しました。

海兵隊ハイマースや車両は、山口県萩(山口県)の海兵隊KC-130Jの中給油機を使い別海駐屯地内の計根別飛行場に沖縄から空輸されました。同飛行場では、C-130やC-17輸送機が着陸可能な飛行場修復訓練も初めて行われました。

(5面につづく)